

日本学会議

学術フォーラム（2017年10月22日）

指定討論：  
保育の社会科学的分析の深化  
に向けて

村上祐介

（東京大学大学院教育学研究科准教授・  
センター運営委員）

# 全体的なコメント・質問

- ◆ 日本における保育の社会科学分析の課題
  - ◆ データ整備の課題は？
  - ◆ 「保育の質」のデータが少ない？
- ◆ 日本を分析対象にすることのメリット
  - ◆ 国際的にみてどのような特徴？
  - ◆ 日本を事例とするメリットは？
    - ◆ 先進国内の逸脱事例としての日本（野口報告）

# 山口報告

- ◆ 「保育の質」の違いが発達に与える影響は分析可能か？
  - ◆ 保育士の数、給与、施設・設備…
- ◆ 母親の幸福度、ストレス
  - ◆ 「保育園に行くこと」自体の効果とみてよいか？
  - ◆ 世帯収入、労働による影響？

# 赤林報告

- ◆ 保育所は幼稚園よりも収益率が高い
  - ◆ ベースとなる家庭環境の差？
  - ◆ 保育所にどのような子どもが当時（1960年頃）通っていたのか？
  - ◆ 「保育の質」をどう測るのか？
- ◆ 現代の幼児教育における限界効果をどう析出するか？
  - ◆ 収益率アプローチで可能？

# 野口報告

- ◆ 低体重化
  - ◆ スペイン、韓国との共通点は？
  - ◆ 医学的発達（サバイブする低体重児の増加）の影響は？
- ◆ 低体重の影響
  - ◆ 不連続である可能性（閾値はどこか？）
  - ◆ 制度・政策との関連の可能性